

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 水曜日・4校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と環境 (ライフサイクルとメンタルヘルス) Human and Environment (Life cycle and mental health)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 中根 秀之 /Eメールアドレス:hinak@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 精神神経科医局 /TEL:819-7293 /オフィスアワー:月・水曜日・13:00-15:00 (出張など不在の際にはメールで)			
担当教員(オムニバス科目等)	今村 明 木下 裕久		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:近年では、自殺やいじめといったメンタルヘルスに関連した様々な問題が、注目されている。このストレス社会をより豊かに生き抜いていくために、また、家族や知人を援助していくために、ライフサイクルのそれぞれのステージにおけるメンタルヘルスについて理解を深める。  授業方法:参考資料やプレゼンテーション、さらに必要に応じてビデオを用いて行う。  授業到達目標: 生命の誕生、胎児期から老年期、そして死に至るまでのライフサイクルを理解できる。 メンタルヘルス、ストレスコーピングについて自ら総合的に考えることができる。 精神障害や精神保健、偏見や差別について理解する。 自分や家族・周囲のメンタルヘルスの援助ができる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週の授業内容を含む) 授業内容(概要) 本科目では、生命の誕生、胎児期から老年期、そして死に至るまでのライフサイクルを概観し、それぞれのライフステージに関連したテーマに焦点を当て、講義を行う。それらのテーマについて、自分がどのように感じ、考えるかという作業が重要であると考え。メンタルヘルス、ストレスコーピングについて総合的に理解を深める。  第1回 オリエンテーション (担当 中根):講義全体の概観と講義のすすめ方に関する説明 第2回 生命誕生の神秘(発生学) (担当 今村):命の誕生に関する生物学的な理解 第3回 ストレッサーとストレス (担当 中根):「ストレス」の歴史的背景と心理・社会的問題。 第4回 ライフサイクル(1) 胎児・乳児・幼児期・学童期 (担当 木下):児童期における変化と問題点 第5回 ライフサイクル(2) 思春期・青年期 (担当 木下):青年期における変化と問題点 第6回 ライフサイクル(3) 壮年期・老年期 (担当 木下):壮年期における変化と問題点 第7回 恋愛・結婚・離婚、男性と女性 (担当 今村):生物学的な男性と女性の違いや、感情の変化 第8回 学校と職場のメンタルヘルス (担当 中根):学校保健、産業保健の理解、ハラスメントについて 第9回 精神疾患(1) 統合失調症・気分障害・神経症性障害 (担当 今村):統合失調症・気分障害・神経症性障害等の精神障害に関する理解。 第10回 精神疾患(2) 児童思春期の精神疾患・人格障害・薬物依存・生理機能障害(担当 今村):児童思春期の精神疾患等の精神障害に関する理解。 第11回 老いと向き合う -高齢化社会と認知症- (担当 中根):高齢化の及ぼす生物学的変化と認知症の介護 第12回 生と死を見つめる、自殺の問題 (担当 中根):安楽死や尊厳死、自殺の問題 第13回 現代の社会病理 -児童虐待・引きこもり- (担当 今村):虐待や引きこもり、少年犯罪等の社会的問題の理解 第14回 メンタルヘルス -ストレスとつきあう- (担当 中根):ストレスマネジメント、ストレスコーピングの実際 第15回 定期試験 又は まとめ通常授業			
キーワード	メンタルヘルス、精神保健、精神障害、ストレス		
教科書・教材・参考書	教材: 参考資料やプレゼンテーションのプリントを配布。ビデオも使用する。		
成績評価の方法・基準等	○授業中の課題に対する積極的な取り組み状況 30%、レポート 70%、レポートの評価の基準は、与えられたテーマについて、理解を裏付ける討議ができているかを判断基準とする。		
受講要件(履修条件)	履修上の注意:原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、個別指導等を行う。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	本科目では、生命の誕生、胎児期から老年期、そして死に至るまでのライフサイクルを概観し、それぞれのライフステージに関連したテーマに焦点を当て、講義を行う。それらのテーマについて、自分がどのように感じ、考えるかという作業が重要であると考え。メンタルヘルス、ストレスコーピングについて総合的に理解を深める。		
備考(準備学習等)	日常生活の中から Web や TV などを用いてメンタルヘルスや精神保健に関する情報を取り入れる工夫をすること		